

ヨーロッパ諸国に見る感染予防対策と快適さに配慮した病院設計

波多江 新平 ICHG 研究会代表・京都府立医科大学客員講師

これからの日本の医療は、人口の減少、入院期間の短縮・高度医療の在宅医療への移行（入院ベッド数の減少）包括医療・疾患別定額医療（出来高払いの廃止）等の変革がすすみ、患者が病院を選ぶ時代が到来した。病院の健全経営は、快適な療養環境に多くの患者に来てもらうことである。トータルコストが削減でき、そこに働く医療スタッフにとって働き甲斐があり、患者にとって良い療養環境であることが大切である。

我々 I C H G 研究会は、10 年以上にわたり、E U 先進諸国 8 カ国 40 余りの病院を視察した。E U 諸国の病院は、色彩が明るく、病院の臭いがなく好印象であった。具体的施策は以下に示す。施策は写真等を用いて紹介する。

入り口の数の制限と、風除室の構造、完全バリアフリーで、院内 1 c m の段差やスロープはない。臭いは、病院の臭いではなく町の臭い（コーヒーとパンの焼ける臭い）。明るい色彩（床・壁のカラフルな色彩、カーテンは色柄のもの）ほこりが溜まり難く清掃しやすい構造、床に物を置かない構造（便器、シンク、ゴミ箱等壁掛け式の構造）、診療域は、床と壁の R 立ち上げ、結露の防止（ペアガラス、断熱サッシ等）、汚れが付きにくい素材、次亜塩素酸ナトリウム液処理対応のノーワックス管理の床、使いやすい手洗いシンク（手首まで洗える蛇口の高さ、ワンタッチ混合栓、壁給排水等）見やすくほこりの溜まらない表示看板、コンセント・スイッチ等の電源の高さ、手すりの構造、ドアノブの形、ストレッチャーガード等の構造。部署別には、手術室等の清潔域の空調と構造（換気回数、照明器具の構造等）I C U、N I C U、中央材料部、売店、プレイルーム等の気がついたポイントを紹介する。

病院の構造や色彩は一つの文化であり、急に方針は変えがたいものかもしれないが、考え方を少し変えるだけで、明るい良好な療養環境の提供と、トータルコストを削減することが可能である。また、感染予防対策の面からも病院設計は重要で、例えば、血液・体液・排泄物等の飛散した場合の処理方法も考慮に入れて設計する必要がある。病院の設計は、施主側から具体的な要望を多く設計事務所に出して設計することが重要である。自分が患者になったときに納得できる医療機関で療養できる環境を提供し、多くの患者に満足をしていただくことが、病院を発展させることにつながると考える。